

教材教具および題材	学部	授業名（主たる教科領域）	執筆者
絵本『ぴんぽーん』	小	あさのかい 1年 (国語)	柴田響子

<ねらい>

- ・絵本に注目して見聞きする。
- ・絵本の中のボタンを探して押す。
- ・教師とやりとりしながら、チャイムを鳴らすイメージを持つ。

<内容（作成方法・使用方法・工夫点など）>

- ①絵本『ぴんぽーん』（アリス館）の読み聞かせの前に、押すと「ピンポーン」と音が鳴るおもちゃのチャイムをみんなで鳴らして、音のイメージやボタンを押すイメージを持たせる。



- ②絵本に描かれているチャイムやボタンのようなもの（木の切り口・ネジ・石・花など）を児童に探すように促し、指で押させる。押せたときには「ピンポーン」と言って、押すことを楽しませる。



- ③回を重ねてやりとりに慣れてきたら、動物たちの家を見て「誰の家かな？」と質問したり、絵本のボタンを押すときに児童に「ピンポーン」と言うように促したりして、児童の実態に合わせてやりとりを広げていく。



<良かった点・改善点（児童生徒の反応を含め）>

- ・最初に本物に近いおもちゃのチャイムを見せて鳴らしたことで、チャイムを押す活動だというイメージを持たせることができた。
- ・同じ展開が繰り返される絵本なので、児童たちもすぐにやりとりを理解して、チャイムのボタンを探して押したり、絵を見てどの動物の家かを答えたりするを楽しんでいた。
- ・発語がない児童にはボタンを探して押させることをメインにしたり、言葉でやりとりできる児童には「ピンポーン」を言うように促したり、出てくる動物の名前を答えさせたりすることをメインにすることで、児童の実態が違ってそれぞれに楽しめる活動を設定することができた。

<その他（材料、費用、購入先等）>

絵本『ぴんぽーん』（アリス館）、おもちゃのチャイム（ガチャガチャの景品）

